

NFAアクションプラン2022→2026	全体	頁中の頁
1. 現状の概要と今後の方向性	1種	地区協会 委員会 連盟
<p>パラサッカーフェスティバル、スーパーリーグと2事業が、パラサッカーフェスティバルがグラスルーツ委員会に移行し、スーパーリーグは2019年よりコロナ等の理由により中止をしている現状です。</p> <p>今年度より1種委員会事業になった、新潟県サッカー選手権大会は天皇杯全日本サッカー選手権大会の新潟県予選を兼ねた大会で、新潟日報社・共同通信社の主催協力を得ながら大会を開催し、県No.1を決める意義のある大会である。しかし、参加チーム数(2015年度24チーム、2013年度15チーム、2022年度14チーム)が減少を続け、チーム数増加と大会の活性化が課題となっている。全国的な課題であるが、2015年度より2種チームの大会参加資格はく奪、2017年度にJFAカレンダー改革による日程変更や、社会人登録チーム数減少と過密日程など、また、2019年度に共催社のNHKが全国的に共催辞退し、経費提供とテレビ放映がなくなり魅力減少につながった。2020年度からはコロナ禍の影響もあり、参加数減少の要因になっている。この課題に対して、他種別との連携強化を図り、大会レベル向上と大会独自の参加メリット創出と魅力ある大会をつくる必要があるが、改善の兆しはみられていない。</p> <p>新しい試みとして、2023年より8人制の県リーグを正式に立ち上げ、大会等に参加はしていない潜在的な選手も参加できるようなイベント事業として、サッカーファミリーの増加を図っている。</p> <p>これまでの中期目標であった2022年目標に対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい</p>		
NFAアクションプラン2022→2026	全体	頁中の頁
2. 中期目標(2030年)	1種	地区協会 委員会 連盟
<p>県選手権大会</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会参加チーム数が30チームになる(2022年度14チーム参加で数年横這い) 天皇杯全日本サッカー選手権大会で新潟県代表チームが3回戦進出やJリーグクラブと対戦する。 大会開催は最低でも人工芝での実施とし、準決勝戦、決勝戦はスタジアムにて実施する。 全ての試合において、安全で問題の起らないスムーズな運営ができる。 インターネットライブ配信や情報発信などを充実させ、大会参加の魅力を生み出す。 <p>8人制リーグ</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加チーム 16 		
NFAアクションプラン2022→2026	全体	頁中の頁
3. 長期目標(2050年)	1種	地区協会 委員会 連盟
<p>県選手権大会</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会参加チーム数が40チームになる。 天皇杯全日本サッカー選手権大会で新潟県代表チームが3回戦進出やJリーグクラブと対戦する。 準決勝以上はスタンドのあるスタジアムで実施し、決勝戦での観客動員を5,000人にする。 各種全国大会や北信越大会を実施する際のボランティアが育っている。 新潟県サッカー選手権大会の実施方式が各種大会のモデルとなっている。 全試合インターネットライブ配信を行っている。 <p>8人制リーグ</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加チーム 20 		

NFAアクションプラン2022→2026				全体 頁中の 頁	
4. 現状分析				地区協会 1種委員会 連盟	
No.と事項	2026年具体的目標	2022年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策
1. 参加 チーム	県選手権24チーム参加 ・北信越リーグ 5 ・県リーグ 13 ・大学 6 8人制リーグ 16チーム参加	県選手権14チーム参加 ・北信越リーグ 5 ・県リーグ 6 ・大学 3 8人制リーグ 8チーム参加	70%	<登録チーム数の増加> 1. 情報把握 チーム事情の把握 他県大会の情報把握 2. 情報提供 チームへの告知 チームへの広報活動 3. 日程の見直し 他大会含めた過密日程 4. 魅力の創出 大会参加意欲がない	アンケート実施及び対策 北信越担当者との連携強化 大会案内等の告知強化 HP等大会情報提供強化 各対象連盟との連携強化 (社会人、大学、フットサル) インターネット ライブ配信の新設
2. 運営	大会運営の充実(運営人数)	大会運営少数にて実施 日程調整が困難(他大会の重複)	80%	<大会運営の充実> 1. チーム運営 チーム運営委員の運営 2. 実施委員の充実 実施委員の運営参加 3. 日程の見直し 日程調整の困難(他大会の重複)	運営に関する業務指導強化 帯同審判業務に対する指導強化 実施委員との連携強化 実施委員の増加 各対象連盟との連携強化
3. 経費	参加チーム数を増やす 会場費の軽減に努力する	助成金に頼っている 会場費が参加費及び助成金の50%	30% 70%	<運営費用の確保> 1. 運営経費の捻出 参加チーム数の激減 2. 運営経費節減 運営経費の増大	各情報の把握と対策を検討 大会の魅力を創出 運営経費の軽減に努力 各市町村との連携にて会場確保
事項番号と見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2022年目標に向けての2018年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

5. 具体的アクション

地区協会

1種委員会

連盟

No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように
1-1	1種委員会	毎年大会案内まで 毎年常に	各種登録チームに対し 他県担当者との連携	要望アンケートを実施し 他県の県選手権情報を	対策検討し魅力を創出する 収集し対策を検討する
1-2	1種委員会	毎年大会案内時に 毎年常に	各種登録チームに対し HPやSNSを活用し	参加案内の強化を行い 大会案内、情報などを	参加を促す 更新して魅力を創出する
1-3	1種委員会	毎年大会案内までに	各担当者との連携	各種大会日程調整を	実施し対策を検討する
1-4	1種委員会	2026年までに	準々決勝以降にて	インターネットライブ配信を	実施する
2-1	1種委員会	毎年常に	参加チーム担当者に対し	運営に関する業務指導を	実施し理解を促す
2-2	1種委員会	2026年までに 2026年までに	実施委員との連携 実施委員との連携	具体的目標と対策を 新規人材を	検討し共有する 検討し確保する
2-3	1種委員会	毎年大会案内までに	各担当者との連携	各種大会日程調整を	実施し対策を検討する
3-1	1種委員会	毎年常に 2026年までに	登録チームに対し 試合の	要望などを インターネットライブ配信など	把握し魅力を創出する 独自の魅力を創出する
3-2	1種委員会 1種委員会	毎年常に 毎年会場調整時に	実施委員との連携 各市町村との連携	購入経費・人件費などを 会場経費を	抑えて経費削減する 抑えて経費削減する